討論

2025年3月27日
日本共産党神戸市会議員団
松本のり子

私は日本共産党神戸市会議員団を代表して、請願第3号訪問介護の介護報酬引き下げの撤回を要請する意見書提出を求める請願、請願第4号神戸市、緑の基本計画にのっとり王子公園の自然環境を守ることを求める請願の委員長報告に反対して討論を行います。

まず、請願第3号です。介護保険の訪問介護基本報酬が引き下げられ、まもなく1年がたちます。

介護保険をめぐっては、利用料の2割負担の対象者拡大、要介護1・2の生活援助サービスの保険外しなどさまざまな改悪案が出されています。改悪を許せば在宅介護は崩壊し、親の介護のための「介護離職」を増大させ「保険あって介護なし」を招きます。介護保険の国庫負担を増やし保険料・利用料軽減、介護報酬の抜本的引き上げを行うべきです。

2024年度の介護報酬改定は、訪問介護事業所だけ基本報酬の引き下げをおこないません。

訪問介護は人手不足が深刻な介護事業界の中でもとくに担い手の確保が大変です。マイナス改定が決まると、すぐに全国ホームヘルパー協議会と日本ホームヘルパー協会は会長の連名で「私達の誇りを傷つけ、更なる人材不足を招くことは明らか」「訪問介護サービスが受けられない地域が広がりがねません」と厳しい抗議声明を出されました。

その後の事態は抗議声明の懸念の通り進行し、きわめて深刻な状況です。

全国での訪問介護事業所の倒産・休廃業・解散は592社。神戸市では令和6年4月～7年2月までで27件となっています。

いくつかの介護事業所の聞き取りをしました。

報酬引き下げで年間100万円の赤字になると困っている事業所や、また、報酬削減により自分の年金を入れて運営しているという話も伺いました。

ヘルパー不足で経営者が朝6時から夜8時まで仕事をしてそのあと事務作業しているとの声や80歳のヘルパーさんがやめたいと言っているが困るので残ってほしいと懇願して、事業所を回している。また、デーサービス併設の訪問介護事業所はデーサービスに通う人が、階段しかない団地などの場合でも、複数で支えたり車いすで降ろしたりしながらデーサービスの送り迎えしています。

大手の介護事業所が受けないこのようなケースを担っているのが地域の訪問介護事業所です。

神戸市内で面積の広い北区と西区では、この1年で北区3か所、西区で6か所の事業所が廃止になりました。兵庫区と比較すれば、カバー面積は北区が13倍、西区は1.2倍です。

このままでは地域差が更に大きくなる懸念があります。

地元密着の事業所は在宅介護の要です。小さな事業所が廃業においこまれることは在宅サービス全体に影響し、在宅での高齢者の尊厳ある暮らしを脅かすことに繋がります。介護報酬の引き下げを元に戻すよう求める請願第3号の採択を求めます。

次に神戸市の緑の基本計画にのっとり王子公園自然環境を守ることを求める請願第4号についてです。

「原田の森」は摩耶山を背景に大正末期には新進の芸術家達が新興美術運動を巻き起こした場所です。このような歴史的な背景をふまえてこの地域にはギャラリーも複数あり芸術の拠点として知れ渡っています。だから市民は今ままで「原田の森」を残してほしいと声を上げているのです。

請願では神戸市は「緑とともに永遠に生き続ける都市」を基本理念とした緑の基本計画を策定しています。CO2吸収源やヒートアイランド現象の緩和につながる緑の在り方などが挙げられており、自然災害の発生防止や防災力の向上など、都市公園の果たす重要な役割が指摘されています。今回の王子公園の再整備がこの趣旨に沿った対応になっているのかを議会として検証してほしいとされています。

2月の建設常任委員会では再整備を行う設計・施工の事業者の公募をしている最中で、今後事業者が決定した際に、大学ゾーン、公園区域などを決め、樹木との関係性、影響等も踏まえ、保存、移植、伐採の計画を定めていくので、今は明らかにできないとの答弁でした。

しかし、この時点ですでに売却業者がきまっており樹木の伐採、保存、移植等の計画は再整備委託事業者まかせであり、不透明なままです。神戸市は「新しい国際都市へ進化・神戸の再生」として「森林・里山の再生」を「3つの再生」の1つに位置づけながら、「原田の森」の樹木の伐採をおこなうことは認められません。

請願の委員長報告に反対し議員の皆様の採択を求めて討論を終わります。